

【中小企業の診断及び助言に関する実務の事例Ⅳ】

2023/11/2 現在

第1問（配点20点）

（設問1）

	(a)	(b)
①	売上高営業利益率	11.59（％）
②	固定資産回転率	23.04（回）
③	当座比率	311.97（％）

（設問2）

将	来	の	成	長	を	見	込	ん	で	、	人	件	費	等	の	削	減	を	行
わ	な	か	っ	た	り	新	た	な	製	品	分	野	の	基	礎	研	究	に	係
る	費	用	を	費	や	し	た	り	し	て	い	る	が	、	同	業	他	社	と
の	競	争	激	化	に	よ	り	売	上	高	が	減	少	し	て	い	る	こ	と。

第2問（配点30点）

（設問1）

(1)	63.31	％
(2)	1,141,590	千円
(3)	3,111,447	千円
(4)	14.73	％

（設問2）

(1)	ある ない																		
	貢	献	利	益	が	50	00	万	円	と	プ	ラ	ス	で	あ	る	た	め	。

(2)	20,000	万円
	X製品の貢献利益：5,000万円 X製品の回避不能な個別固定費：15,000×（1－0.8）＝3,000万円 Y製品の限界利益率：4,000÷10,000＝0.4 必要な売上高（S）の増加分：0.4S≥（5,000＋3,000） ∴S＝ <u>20,000万円</u>	

(設問 3)

妥	当	で	は	な	い	。	製	品	ご	と	に	コ	ス	ト	構	造	・	限	界
利	益	率	が	異	な	る	の	で	、	そ	れ	ら	を	考	慮	し	た	配	賦
基	準	の	方	が	売	上	高	基	準	よ	り	も	製	品	ご	と	の	共	通
費	の	負	担	を	合	理	的	に	配	賦	で	き	る	た	め	。			

第3問 (配点 30 点)

(設問 1)

(1)	2,585 万円	
	<p>●各年度の経済的効果（税引後 CF）</p> $\{ (1-0.4) \times 10,000 \text{ 個} - 2,200 \} \times (1-0.3) + 11,000 \div 5 \text{ 年} \times 0.3 = 3,320 \text{ 万円}$ <p>●正味現在価値</p> $3,320 \times 3.993 + (11,000 \times 0.1 - 11,000 \times 0.1 \times 0.3 + 800) \times 0.681 - 11,000 - 800 \times 0.926 = 2,585.13 \div \underline{2,585 \text{ 万円}}$	
(2)	△5,702	万円
(3)	99	万円
	ある	ない

(設問 2)

	620	万円
(1)	<p>●各年度の経済的効果（税引後 CF） 10,000 個：2,660+11,000÷4 年×0.3=3,485 万円 5,000 個：560+825=1,385 万円</p> <p>●正味現在価値 $\{3,485 \times (3.993 - 0.926) + 1,570 \times 0.681 - 11,000 \times 0.926 - 800 \times 0.857\} \times 0.7 + 0 \times 0.3 = 620.2455 \div 620$ 万円</p>	

(2)	正	味	現	在	価	値	が	52	1	万	円	少	な	い	た	め	初	年	度	期
	首	に	は	投	資	せ	ず	販	売	量	予	想	に	応	じ	て	2	年	度	期
	首	に	投	資	を	実	行	す	る	。										

第4問 (配点 20 点)

(設問 1)

設	備	投	資	等	が	不	要	に	な	る	こ	と	で	低	固	定	費	型	の
コ	ス	ト	構	造	に	な	る	た	め	売	上	減	少	に	対	す	る	利	益
減	少	リ	ス	ク	が	低	く	な	る。										

(設問 2)

既	存	事	業	の	経	営	資	源	を	活	用	で	き	る	た	め	、	人	件
費	等	の	共	通	費	の	分	散	や	自	社	E C	サ	イ	ト	等	の	資	産
効	率	性	の	向	上	が	図	れ	る。										